

笛吹市探訪

『ふるさとの祭り』六 「米倉人形三番叟」



「千歳」の舞



「三番」の舞



「翁」の舞

ふるさとの祭りシリーズ第六回は、先月11月3日、文化の日に八代町米倉地区鉾衝神社で行われた米倉人形三番叟について紹介します。八代町の伝統芸能

八代町は古くから芸能が盛んなところで、県や市の指定文化財に指定されている岡の式三番叟や永井天神社の神楽そして米倉の人形芝居など古くからの優れた芸能があります。

米倉地区にはこの地区の氏神さんである鉾衝神社というお宮があり、お宮の保存庫には、昔使われていた人形芝居の頭が43点と衣装・道具一式が大切に保管されています。人形三番叟とは

米倉の人形芝居にはあやつり人形と三番叟があり、言い伝えによると江戸中期に発祥し、当時の名主の保護を受けて村の若い人たちによって伝承されてきました。あやつり人形について詳細はわかっていませんが、明治17年頃まで行われていたといわれています。

一方の人形三番叟とは、能楽のひとつである式三番を人形を使って演じるものです。舞台は能舞台形式そのものであり、背面に鏡板、音曲方は囃子座に据え、三体の人

形が舞います。

経緯としては、1月14日と6月14日の夜に、疫病神が村に入つてこないように浅川にかけられた橋の上や村境の道路などで、明治42年まで上演されていました。

その後途絶えていましたが、平成2年、およそ81年のときを経て人形芝居のうち三番叟が区民有志の熱意により復活しました。それぞれの舞の特徴

まずは「千歳」と呼ばれる若者の象徴とされる人形が長寿を祝います。次に「翁」と呼ばれる集落の長を象徴する人形が天下泰平を祈り舞い、最後に「三番」と呼ばれる農民の象徴とされる人形が五穀豊穡を祝い舞います。

人形はそれぞれ「主遣い」：頭と右手、「左手遣い」「足遣い」と呼ばれる三人の黒子姿の遣い手が技術を駆使して華麗に舞わせます。この三体の舞それぞれに特徴がありますが、中でも「三番」の舞は激しく勇壮で人気があります。

各地の伝統芸能が担い手なく姿を消している中で、数十年の時を経て復活したこの人形三番叟を皆さんご覧になってはいかがでしょうか。